



10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[45]歳、勤続年数[24]年、現場経験年数[3]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[33]歳、勤続年数[15]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動 [ ]、任務 [ ]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	救助活動中スズメバチに遭遇し避難し難を逃れる。	
経過2	当事者B	当事者Aとともに避難したが刺される。	
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった 危険事象の対応方法を知らなかった 集中力、注意力がなかった 避難退避がうまくいかなかった 現場周辺の地理がわからなかった 指揮者が適切に指示しなかった 後方からの監視が行き届いていなかった 他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった 他隊(員)から適切な注意を受けられなかった たまたま、事故になった その他：山中での予期せぬ事象であるが、危機感を持った行動を行う

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

一般に登山等におけるの蜂刺傷は、稀な事ではなく全国各地で発生している。今回の事象では、蜂刺傷に対する危機感と先見力の欠如が原因と考えられる。
--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

山中では付近の状況を確認し、救出活動における技術面のみでなく、個々における蜂又はその他の動物に対する危機感を持ち活動する。

○装備・資機材の対策について

蜂刺傷に対しての有効な資器材は少ないが本事例の後、蜂撃退用スプレーを導入し、シーズン時の山岳救助に持参している。

○活動環境の対策について

周囲の環境により蜂の存在を察知することは困難であるが、蜂飛来を確認した場合は活動を停止し、避難行動を開始する。

○指揮・情報伝達の対策について

活動を実施している活動隊員が、蜂の存在を確認し即座に避難行動をとることは困難である為、現場指揮者若しくは、現場隊長は周囲の状況を確認し活動停止又は避難指示を出すなど安全管理を徹底した活動を心掛ける。

